

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

- ☆最初のISS構成要素打上げから1817日経過しました
- ☆第8次長期滞在クルーのISS滞在は22日経過しました

☆ISS動向

第8次長期滞在クルーのマイケル・フォール宇宙飛行士は、微小重力環境下において腕を伸ばしたり物を掴むときの手と腕の筋肉の動きを調べる実験を行いました。先週の木曜日に実験に参加している間、フォール宇宙飛行士はデータ取得センサを内蔵したグローブをはめていました。飛行前と後の比較を行うことによって、長期間にわたる宇宙滞在による筋肉の変化を測定します。

また、ふたりの宇宙飛行士は、微小重力下での腎臓結石の予防に関する実験に参加しました。宇宙滞在中および帰還後に腎臓結石ができやすいため、地上で検証された治療法を宇宙で試しています。

その他の作業として、フォール宇宙飛行士はEarthKAMと呼ばれる社会や理科の教育用のデジタルカメラをデスティニー(米国実験棟)の地球に面した窓に設置しました。これにより、中学生等が地球の写真を撮ることができ、撮った写真は学生たちが解析するために地上に送信されます。

一方、ロシアの星の街にあるガガーリン宇宙飛行士訓練センター(GCTC)に滞在している第7次長期滞在クルーのマレンチェンコとルー両宇宙飛行士は、米国中部標準時間11月18日(火)に米国ヒューストンへと移動し、帰還報告などを行う予定です。



フォール宇宙飛行士



カレリ宇宙飛行士



第7次長期滞在クルー

“コロンビア号事故調査報告”

NASAは、11月6日(木)にISSの運用継続に関する実施計画書「Implementation Plan for International Space Station Continuing Flight」を公開しました。

内容はパート1と2に分かれていて、パート1は、コロンビア号事故調査委員会(CAIB)からの勧告に対する対応で、パート2は内部の検証作業からの指摘事項に対する対応が示されています。

なお、本資料は今後も定期的に改訂が加えられる予定です。

実施計画書原文(英語、PDF: 827KB)は以下のページから入手できます。

http://www.nasa.gov/pdf/53067main_station_imp_plan.pdf



実施計画書表紙

“トピックス”

☆スペースシャトルミッション(STS-114)搭乗員追加

NASAは、スペースシャトル・コロンビア号事故後、初めての飛行再開ミッションであるSTS-114の搭乗員として、これまで発表されていた野口宇宙飛行士を含むスペースシャトル搭乗員4名に、新たに3名を追加し、以下の7名とすることを発表しました。STS-114は、当初ISSへの物資補給やクルー交代を目的としたミッションでしたが、コロンビア号事故後初めての飛行再開ミッションであるため、スペースシャトルの安全性向上のテストを軌道上で行うことが主目的となりました。なお、STS-114打上げは2004年9月以降の予定です。

・これまでに発表されていた搭乗員

コマンダー アイリーン・コリンズ

パイロット ジェームス・ケリー

MS 野口 聡一

MS スティーブン・ロビンソン

・追加搭乗員

MS アンドリュー・トーマス(Andrew Thomas)

MS ウェンディー・ローレンス(Wendy Lawrence)

MS チャールズ・カマーダ(Charles Camarda)

*MS: ミッションスペシャリスト(搭乗運用技術者)



ジェームス・ケリー、スティーブン・ロビンソン、野口 聡一、アイリーン・コリンズ(左から)



アンドリュー・トーマス



ウェンディー・ローレンス



チャールズ・カマーダ

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ISS・きぼうホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/> Eメール kibo-koho@jaxa.jp

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。